

人権教育広報

ふれあい

編集・発行 桶川市人権教育推進協議会



第22号



桶川市立朝日小学校 4年 永里 佳子

人権標語優秀作品

【小学校の部】

ちがう意見 認めて生まれる クラスの和
思いやり みんながもてば さいきょうだ
守りたい みんなの個性 みんなのえがお
しらんぷり しない君こそ グランプリ
「ありがとう」伝えてほしいし 伝えたい
やさしさが つないだ手から つたわった
ここにいる ひとりひとりが たからもの

【中学校の部】

人権は だれにも平等 生まれたときから
傷つけた 言葉は消えても いたみは消えない
人はみな 違っていいんだ ありのまま
心の声 自分で消さず 言ってみよう

- | | | | |
|---------|----|---------|---------|
| ●桶川西小学校 | 5年 | ついき 築城 | さな 沙南 |
| ●加納小学校 | 2年 | ふるだて 古舘 | りょう 梁 |
| ●川田谷小学校 | 3年 | くわばら 桑原 | あかり |
| ●桶川東小学校 | 4年 | うちだ 内田 | しおん 汐音 |
| ●日出谷小学校 | 5年 | さいとう 齋藤 | だいすけ 大輔 |
| ●朝日小学校 | 3年 | くさま 草間 | ゆうや 雄哉 |
| ●桶川小学校 | 3年 | よこくら 横倉 | しずく 雫 |

- | | | | |
|---------|----|---------|--------|
| ●桶川中学校 | 2年 | くらもち 倉持 | みゆう 心佑 |
| ●桶川東中学校 | 3年 | よしだ 吉田 | しおり 葉 |
| ●桶川西中学校 | 3年 | ひらさわ 平澤 | だいち 大地 |
| ●加納中学校 | 3年 | さきだい 笹代 | かれん 佳蓮 |

(児童・生徒名については敬称略)



異学年交流で豊かな体験

桶川市立桶川西小学校

本校では、「差別の不合理に気づき、人権尊重の精神を培い、生活の中にある偏見や差別をなくしていく態度を育てる」を人権教育目標に掲げ、全ての教育活動を通して人権教育を推進しています。

また、学校課題研究として「自己肯定感を高める学習指導」をテーマとし、できる喜びや他者との関わりを通して、自分に自信をもったり、自他を大切にできたりする児童を育む教育活動を進めています。

さまざまな体験活動を通して、学校・家庭・地域が一体となった人権教育に取り組んでいます。

年間を通して、「なかよし時間」を行っています。なかよし時間は、一年生から六年生の縦割り班で昼休みの時間にいっしょに遊ぶ時間

です。六年生が事前に遊びを決めておき、いすとりゲームやハンカチ落とし、王様じゃんけんなど、ルールが簡単で一年生から六年生までみんなで楽しめる遊びをしています。六年生はなかよし時間当日には、班員を集めたり、ルールを説明したり、盛り上げるために声をかけたりと、下級生を楽しませてくれています。低学年の児童は、この時間をとても楽しみにしており、しばらくすると、優しくしてくれる上級生のことが大好きになっていきます。年度末には、五年生が中心になり、班のみんなで寄せ書きをプレゼントしています。

児童は異学年と交流をすることにより、ふれあいを深めています。この活動を通して、学校への愛着がさらに深まることを願っています。



全教育活動を通じた人権教育の推進

桶川市立川田谷小学校

本校では、人権教育目標として「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育成する」ことを掲げ、教育活動全体を通して児童・教職員の人権意識を高める取組を行っています。昨年度より、学びの共同体を取り入れ、グループ席を基本の形にして、誰一人として取り残さない考えを大切にしています。

学校生活の中では、毎月一度「川小じんけんの日」を設定し、児童一人一人に学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めています。毎月開催される生徒指導委員会も、全教員が参加し、その場で共有を図っています。

また、人権作文や人権標語への

取組や、縦割り班で行うなかよしデー等を通して、豊かな人権感覚の育成を目指しています。いじめ防止対策基本方針に則り、「いじめ」の早期発見・早期解消を図っています。児童の良さを見つけ、ほめ、励まし、伸ばす積極的な生徒指導や特別の教科道德、特別活動、すべての教育活動を通して、差別やいじめを許さない心と態度を育てています。

本校では、児童会を中心とした活動も特色です。今年度は、「みんなが笑顔になつて学校を好きになる」をテーマに、児童集会を行いました。縦割り班で学校を探検しクイズに取り組みました。

このように、学校・家庭・地域が一体となつて、人権教育の推進に努めています。



本校では、学校教育目標「学ぼう未来へ、育てよう心と体」の教育目標と実践目標「時を守り、場を清め、礼をつくす」のもと、人権教育の目標「一人ひとりの人権を尊重する能力、態度、実践力を養う」「相手の立場を考え、共に学び合える正しい理解と認識を育てる」を設定し、人権教育を推進しています。

人権作文や人権標語作成、人権コーナーの設置をすることで、身近なことや戦争、環境問題等の世界規模の問題など、さまざまな出来事から人権尊重について気づき、考える機会としています。

また、生徒会を中心に「いじめ撲滅宣言」や落ち葉掃きなどのボランティア活動を企画し、多くの生徒が参加して



います。校内だけでなく、地域のお祭りボランティアに積極的に参加する生徒も増えてきました。

人権教育は全教育活動を通して行う観点から、各職務分掌とも連携を図っています。例えば、保健だよりで、人権に関することを掲載しています。教職員の夏季研修では、人権教育研修会を実施し、様々な人権課題（同和問題、性的指向・性自認、子供の人権、教育公務員としての人権感覚の向上など）について理解を深め、教職員の人権意識の向上と人権教育の推進を図っています。

これらの活動を通して、「思いやり」や「気づき、実践する力」を育めるよう、日々の教育活動を行ってまいります。

本校では、学校教育目標「志を持ち、自ら学ぶ、健康でたくましい生徒」のもと「1 人権意識を高める」「2 人権に関する正しい理解を深める」「3 様々な人権課題を解決しようとする態度を育てる」という人権教育目標を設定し、日々の生活活動や各教科学習、特別活動、総合的な学習の時間を通して、人権教育の推進に取り組んでいます。

具体的な取組としては、人権作文と人権標語の執筆を今年度も行いました。自身の体験や身近な人権課題をテーマとした生徒もおり、生徒一人一人が自分事として人権課題に向き合い、人権を守ることの大切さを考える機会をもつことができました。



また、学級活動では、「人権感覚育成プログラム」を活用した授業を行い、SNSにおける人権侵害の例に触れ、ロールプレイを通して、相手の気持ちに配慮した自己表現の大切さを学びました。

さらに、本校では、毎年教職員研修を実施し、教職員の人権感覚を高めることに取り組んでいます。今年度は「子どもの人権」「同和問題」をテーマに、人権問題の事例を挙げながら、人権課題について考え、理解を深める機会を設けました。

今後とも学校全体で、人権課題に関する正しい理解を深め、人権問題を解決しようと自ら学び、行動する力の育成を目指し、日々の教育活動を充実させていきたいと思っています。



自ら学び、行動する力を育む人権教育の推進

桶川市立桶川西中学校



「思いやり」と「気づき、実践する力」を育む活動

桶川市立桶川中学校



かがやくひとみ 笑顔いっぱい 朝日っ子

桶川市立朝日小学校

本校では、学校教育目標の「豊かな人間性と自ら学ぶ意識をもってたくましく生きる児童の育成」を受け、人権教育目標を「人間尊重に徹し、人権尊重の高揚を図り、人権に対する正しい知識と理解を深め、さまざまな人権問題を解決しようとする児童を育てる」として全ての教育活動を通じ発達段階に応じて、他人を思いやり誰とでも仲良くなれる児童、お互いの多様性を認め個人を尊重し合う児童、自他の人権を尊重し公正な判断に基づき義務を果たす児童の育成を目指しています。

「なかよしタイム」では、一年生から六年生までの縦割り班での活動を通して、思いやりの気持ちを育めるように、「人権標語」では、

本校では、学校教育目標の「豊かな人間性と自ら学ぶ意識をもってたくましく生きる児童の育成」を受け、人権教育目標を「人間尊重に徹し、人権尊重の高揚を図り、人権に対する正しい知識と理解を深め、さまざまな人権問題を解決しようとする児童を育てる」として全ての教育活動を通じ発達段階に応じて、他人を思いやり誰とでも仲良くなれる児童、お互いの多様性を認め個人を尊重し合う児童、自他の人権を尊重し公正な判断に基づき義務を果たす児童の育成を目指しています。

「なかよしタイム」では、一年生から六年生までの縦割り班での活動を通して、思いやりの気持ちを育めるように、「人権標語」では、



ひかる瞳 でっかい夢 やりぬく力 が育つ日出谷小学校

桶川市立日出谷小学校

本校では、「明日をつくる 日出谷の子」を学校教育目標と定め、人権教育における目標を「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、人権尊重の精神を育てる」としています。このような正しい知識と人権感覚のある豊かな心をもつ子供を育成するため、次のような活動に取り組んでいます。

○あいさつ運動、心を通わせて、各学級や児童会の代表委員が定期的に昇降口の前に立ち、あいさつ運動をしています。この取組を通して、進んであいさつすることの大切さや、相手に届くあいさつを考えるよい機会となっています。元気のある声と輝くような笑顔で、あいさつをする側もされる側も気持ちのよいスタートをすることができています。

○ふれあいタイム、心で触れ合い、一年生から六年生までの縦割りグループをつくり、昼休みにいっしょに遊ぶ活動をしています。

秋には、「日出谷フェスティバル」があり、縦割りグループで協力して遊びのお店を出したり、他のグループのお店に遊びに行ったりしながら、普段交流が少ない他学年の児童との親睦を深めています。この日は、学校公開日となり、保護者の方々も子供たちといっしょになって楽しむことができます。

その他にも、児童会主体でいじめ防止スローガンをつくったり、学校全体で人権標語や人権作文に取り組みんだりしています。

今後もこれらの取組を通して、笑顔のあふれる日出谷の子を育てていきます。



人権教育DVDの紹介

共に働くための合理的配慮

障害のある方が一人でできないことでも、周りの環境を整えたり、サポートがあれば可能性が広がります。みんなが平等・公平に支え合い、共に活躍するにはどうすればよいでしょうか。本作は、障害に関係なく、誰もが職業を通じて社会参加できる「共生社会」の実現を目指し、合理的配慮について学んでいきます。

障害別に、その障害の特性と合理的配慮の具体例を紹介。また障害のある方にとっての合理的配慮とは何か？障害のある方自身の言葉を通して、紙面などでは伝わりづらい合理的配慮のあり方を考えてゆきます。そして障害者雇用に関する実践例を見ていくことで、合理的配慮の考え方や進め方の参考となる内容です。



はじめて学ぶLGBTs

①男らしい色？ 女らしい色？

小学校低学年・中学年の児童には「性的指向と性自認」の知識を教えるというよりは、世の中が作り出す男らしさや女らしさといった規範がすり込まれる前に、「人はみなそれぞれ違うこと、その違いがよいこと」「こうあらねばならない、という決まりはない」といったメッセージを伝えることが大切。アニメーションにより描かれた色鉛筆と人間との物語を通して、思い込みや偏見にとらわれないことの素晴らしさに気づき、自分らしくあることの素晴らしさに、他者を尊重する姿勢を学びながら、多様性を肯定的に捉える感性の芽を育てる機会とします。

昔の高校生は、あらゆる意味で元気だった。本校でも、「他人に迷惑をかけるな」という当たり前のことを、当時の教員たちは体を張って3年間伝え続け、「一生懸命働いて、仲間や会社で認められ、一人前の社会人」と願い、卒業させてきた。

近年、生徒の雰囲気も大きく変わってきた。それに伴い、学ぶべき人権課題も多岐にわたる。学校は、それら諸課題の解決に向け、多くの講演会や学習プログラムを活用し、生徒の人権感覚の育成に努めている。人権教育に関する教育資料は潤沢に存在し、今年度、本校においても主権者教育、拉致問題、LGBTQ等、様々な課題に取り組んだ。

その中で、私たち教員は、今の生徒たちのコミュニケーションの取り方に不安を抱くことが多い。生まれた時からインターネットが発達して、「簡単」に自分の意見を発信することができるようになった。そこでは問題となるのは「日本語表現のむずかしさ」である。

具体的な例をあげる。ある生徒Aが「Bの今日の髪型よくない？」と別の生徒Cに送信する際、手違いで「？」が削除されてしまった。Bと仲良しのCは「Aが、今日の髪型が似合わなかった」と陰口を言っているとBに伝え、翌日からBがAを無視するようになった。こんなことで人間関係がこじれてしまふのである。

今の教員はとて大変である。些細なトラブルでも仲裁に入り、それぞれの人間関係の正常化に努力する。本校を選んで、毎日登校する大切な生徒たちのため、一生懸命な先生方に校長として感謝の気持ちを伝えたい。



生徒の人権感覚を必死に育てる教職員への感謝

埼玉県立桶川西高等学校

人権作文

自分に何ができるか

小学校三年

ぼくは、よく近じよの公園であそびます。そこには自分よりおさない子、自分より年上のお兄さん、お姉さんや、おじいさん、おばあさん、いろいろな人がいます。ある時から公園で自分にはわからない言葉で話す男の子とそのお父さんがサッカーをしているのがたを見るようになりました。ふとした時、その子がこつちを見ていることもありました。ぼくも気になってはいたけど、話しかけてもつたわらなかつたら、とふあんで、ときき自分のほうにころがってくるボールを何も言わずにかえすだけでした。

ある日、その子が「あそぼう。」と声をかけてきました。「あ、話せるんだ。」と少しあん心して「いいよ。」とわらいかけました。始め

は、いつしよになわとびをしたり、サッカーをしたりしてあそびました。やつぱりうまく会話ができないこともあつたけど、みんなグーグーとわらい楽しそうでした。つぎの日もまたそのつぎの日も、会ったときは公園にいるみんなで、夕方くらくなるまでたくさんあそびました。みんなのわらい声で公園はいつもにぎやかでした。今では、その子のお父さんやお母さんともなかよくなれました。話していても通じないことも多いけど、もつともつとお話したり、あそんだりして、なかよくなりたいです。

この出来事から「友だち」は人しゆも年れいもかんけいないんだとかんじました。だれもが、なかよくあそべる世界になつたらいいなと思います。ぼくはみんながわらっている空間がすきです。まわりにいる人、みんなにわらつていてほしいです。それには、身近にいる人たちがどうしたらえがおですごせるか、自分に何ができるかを考え、今ぼくにできることをがんばっていききたいと思っています。



みんなで築こう 人権の世紀

～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～

様々な人権課題解決のために、私たち一人一人が人権感覚を磨き、自らの課題として受け止め、日々の実践に向けて努力していきましょう。

〒363-8501 桶川市泉1丁目3番28号

桶川市教育委員会生涯学習・スポーツ推進課 TEL 048-788-4970(直通)